

過去問プラス^{PLUS} 社会科学 No.3

東京都 I 類 B 2015

難易度 ★

重要度 ★★★



参考項目 社会科学ザ・ベスト プラス #58

問題

本年1月に発効した日本とオーストラリアの経済連携協定(EPA)に関する記述として、妥当なのはどれか。

1. EPAは、FTAと違い、貿易の自由化に加え、投資、人の移動、知的財産の保護など様々な分野での協力の要素等を含むものとされる。
2. 日本にとって、オーストラリアとのEPAは、インドや韓国などに次いで3か国目の協定で、農業大国と結ぶのは初めてとなった。
3. 牛肉の冷凍品に対する日本の関税は、発効時の税率を約30%に下げた後、18年間かけて撤廃することになった。
4. チーズに対する日本の関税は、7年間で撤廃することになったが、ボトルワインに対しては、生産者の反対が強く関税の撤廃を見送ることで合意した。
5. 現在5%の税率である排気量1500cc超3000cc以下の乗用車に対するオーストラリアの関税は、10年間かけて撤廃することとなった。

解説

1. 妥当。
2. 日本が最初にEPAを結んだのはシンガポールであることを知っていれば斬れる肢。
3. 牛肉の冷凍品は段階的に18年目に19.5%まで削減する。冷蔵品は15年目に23.5%まで削減する。なお、輸入量が一定量を超えた場合は関税率を引き上げるセーフガードを導入する。
4. 7年で関税を撤廃するのはボトルワインであってチーズではない。
5. 完成車輸出額の約75%が即時関税撤廃で、残る完成車についても3年目で関税撤廃となった。

本問は、社会事情、いわゆる時事問題に分類される出題だが、社会科学の学習でFTAとEPAとの違いを知っていれば、ズビバ!で肢1を選ぶことができるだろう。時事問題を解く力は社会科学の学習によって養われることを証する出題だ。

とはいえ、日豪EPAはこれまでの二国間EPAパートナーで最大の貿易相手国。

エネルギー、鉱物資源、食糧の安定供給を強化できることや、オーストラリア市場における日本の競争力を確保することは意義深い。今後も時事問題や人文科学・地理などでの出題を予想しておいてよいだろう。

正解 1